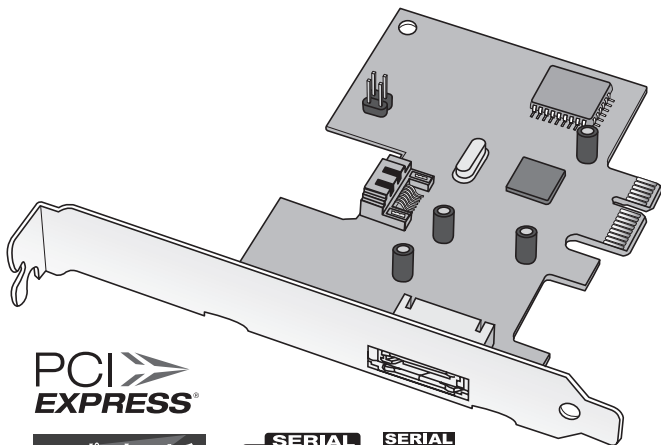


eSATA PCI Express Board

# REX-PE30S

## ユーザーズマニュアル

2010年8月 第5.0版



PCI  
EXPRESS®



本製品を正しく安全にお使いいただくため  
ご使用前に必ず本書をよくお読みください。

ラトックシステム株式会社

 **RATOC Systems, Inc.**

〈ご注意〉

1. 本書の著作権はラトックシステム株式会社にあります。
2. 本書の内容につきましては万全を期して作成しておりますが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡お願い申し上げます。
3. 本書の運用により生じた結果の影響については、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
4. 本書の一部または全部を無断で使用・複製することはできません。
5. 本書の内容は、将来予告なく変更する場合があります。

- PCI-SIG、PCI Express、PCI Expressロゴ、PCIeは、PCI-SIGの登録商標です。
- “REX”は株式会社リコーが商標権を所有しておりますが、弊社はその使用許諾契約により本商標の使用が認められています。
- Windowsは米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、Boot Camp、Mac、Mac OS、Power Macは、Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他本書に記載されている商品名/社名などは、各社の商標または登録商標です。なお本書では、™、®マークは明記しておりません。

# 目次

●	安全にご使用いただくために	2
<b>1</b>	はじめに	3
	-1. 動作環境	3
	-2. 内容物の確認	4
	-3. 各部の名称	4
	-4. 使用上の注意	5
<b>2</b>	Windowsで使用する場合	6
	-1. 本製品が使えるようになるまでの手順	6
	-2. Low Profile PCで使用する場合	6
	-3. PCIeボードの取り付け	7
	-4. ドライバーのインストールとセットアップの確認	8
	-5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール	17
	-6. ホットプラグツールの使い方	18
	-7. ホットプラグツールの削除	23
	-8. PCIeボード経由でOSをインストールする	24
<b>3</b>	Mac OSで使用する場合	27
	-1. 本製品が使えるようになるまでの手順	27
	-2. ドライバーのインストール	27
	-3. PCIeボードの取り付け	29
	-4. セットアップの確認	30
	-5. ホットプラグの使い方	31
	-6. ドライバーの削除	32
<b>4</b>	お問い合わせ	33
	-1. 本製品に関するお問い合わせ	33
	-2. プロダクトキーについて	33
	-3. 修理について	34
<b>5</b>	オプション品のご案内	35
<b>6</b>	一般仕様	36
●	REX-PE30S 質問用紙	

## 安全にご使用いただくために

本製品は安全に充分配慮して設計をおこなっていますが、誤った使い方をすると火災や感電などの事故につながり大変危険です。ご使用の際は、警告/注意事項を必ず守ってください。

### 表示について

この取扱説明書は、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



**警告** この表示を無視して誤った取扱いをすると、火災や感電などにより、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。



**注意** この表示を無視して誤った取扱いをすると、感電やその他の事故により、人が負傷または物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

### 警告

- 製品の分解や改造等は、絶対におこなわないでください。
- 無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重い物を載せることはおこなわないでください。
- 製品が水・薬品・油等の液体によって濡れた場合、ショートによる火災や感電の恐れがあるため、使用しないでください。

### 注意

- 本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。
- ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モーターなどのノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。
- 高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカー等の磁気を帯びた物の近くで保管、使用しないでください。
- 煙が出たり異臭がする場合は、直ちにパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブルもコンセントから抜いてください。
- 本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、輸送機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器での使用は意図されておりません。これらの設備、機器制御システムに本製品を使用し、本製品の故障により人身事故/火災事故/その他の障害が発生した場合、いかなる責任も負いかねます。
- 万一の事態に備えて、本製品をご使用になる前にパソコンのハードディスクや本製品に使用するハードディスク内に保存されているデータやプログラムのバックアップをおこなうことを推奨します。ハードディスクが破損したことによる損失、逸失利益等が発生した場合でも、いかなる責任も負いかねます。
- 取り付け時、鋭い部分で手を切らないよう、充分注意して作業をおこなってください。
- 配線を誤ったことによる損失、逸失利益等が発生した場合でも、いかなる責任も負いかねます。

#### 【電波障害自主規制について】

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

# 1

## はじめに

この度は本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。末永くご愛用賜りますようお願い申し上げます。

本書は本製品の導入ならびに運用方法を説明したマニュアルです。正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず本書をよくお読みください。また、お読みになった後も本書は大切に保管してください。



### 本文中の記載について

※PCI Expressは、PCIeと表記することがあります。

※記載している内容は、このマニュアルの制作時点のもです。フォルダー名、ファイル名、画面などが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

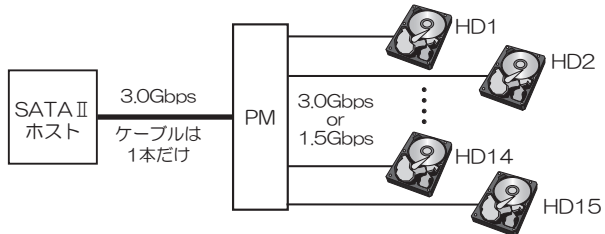
# 1

## 1-1. 動作環境

- ◆ 対応OS : Windows 7/Vista/XP/2000, Windows Server 2008/2003  
※64ビット版にも対応(Windows 2000を除く)  
Mac OS X 10.4以降
- ◆ 対応機種 : PCIeスロットを装備した以下の機種
  - ・Windows PC
  - ・Mac Pro  
※Mac OSの場合、本製品に接続したハードディスクからの起動には対応していません。  
※Power Mac G5 (Dual 2GHz, Dual 2.3GHz, Quad 2.5GHz)には対応していません。  
※DELL PowerEdge T300 サーバー、Precision T5500ワークステーションには対応しておりません。
- ◆ 対応デバイス : eSATAに準拠したデバイスに対応
  - ・“ポートマルチプライヤー対応”外付けリムーバブルケース(SA-DK5-ESRなど)
  - ・外付けリムーバブルケース(SA-DK1ES, SA-DK1EUなど)
  - ・外付け5インチドライブケース(RS-EC5ESなど)
  - ・内蔵リムーバブルケース(SA-RC1シリーズなど)
  - ・内蔵ハードディスク

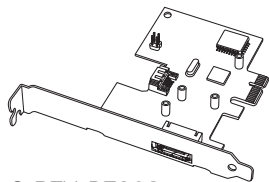
### ポートマルチプライヤー(PM)とは？

SATA II 規格からの新機能で、1つのホスト(ポート)に、複数のデバイスを接続できる(複数のポートに分ける事のできる)機器、または機能の事を指します。単純に言えば、一種のハブのような機能です。規格では、1つのPMに最大15台までのデバイスが接続可能です。

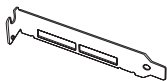


## 1-2. 内容物の確認

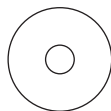
パッケージの中に下記の物がすべて揃っているかご確認ください。  
万が一不足がありましたら、お手数ですが弊社サポートセンターまたは販売店までご連絡ください。



● REX-PE30S  
(eSATA PCIeボード)



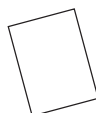
● Low Profileブラケット



● ソフトウェア  
CD-ROM



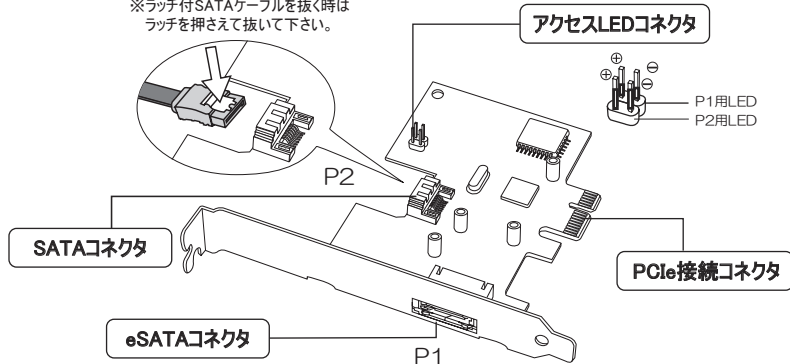
● ユーザーズマニュアル  
(本書)



● 保証書

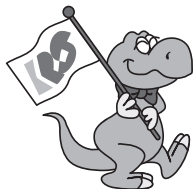
## 1-3. 各部の名称

※ラッチ付SATAケーブルを抜く時は  
ラッチを押さえて抜いて下さい。



## 1 -4. 使用上の注意

- 本製品は起動用ブートROMを搭載していますが、接続したハードディスクやSSDからシステムを起動するには、BootBIOSの書き込みにより有効化する必要があります。(シリアルNo:PE30S0021391~PE30S0021590、PE30S003001以降の製品は、ブートROMを無効にして出荷しています。専用ユーティリティにてBootBIOSを書き込み、有効化してください。)
- アクセスLEDコネクタにアクセスLEDケーブルを接続した場合、隣接するボードに接触する場合があります。
- eSATAケーブルは最長200cm、SATAケーブルは最長100cmまでのものを使用してください。
- Mac OSの場合、本製品に接続したハードディスクからの起動には対応していません。
- Boot Campなどの仮想OSでの使用はサポートしていません。
- Mac OSのクラシック環境での使用はサポートしていません。
- 接続したデバイスへの電源供給はおこなえません。
- SATA IIの機能(3Gbps転送やNCQなど)を使用するためには、各機能に対応したデバイスが必要です。
- 本製品の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品改良のため、将来予告なく外観または仕様の一部を変更する場合があります。
- 本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守及びサポートはおこなっておりません。
- 本製品を廃棄するときは地方自治体の条例に従ってください。条例の内容については各地方自治体にお問い合わせください。
- 本製品の保証や修理に関しましては、添付の保証書に内容を明記しております。必ず内容をご確認の上、大切に保管してください。

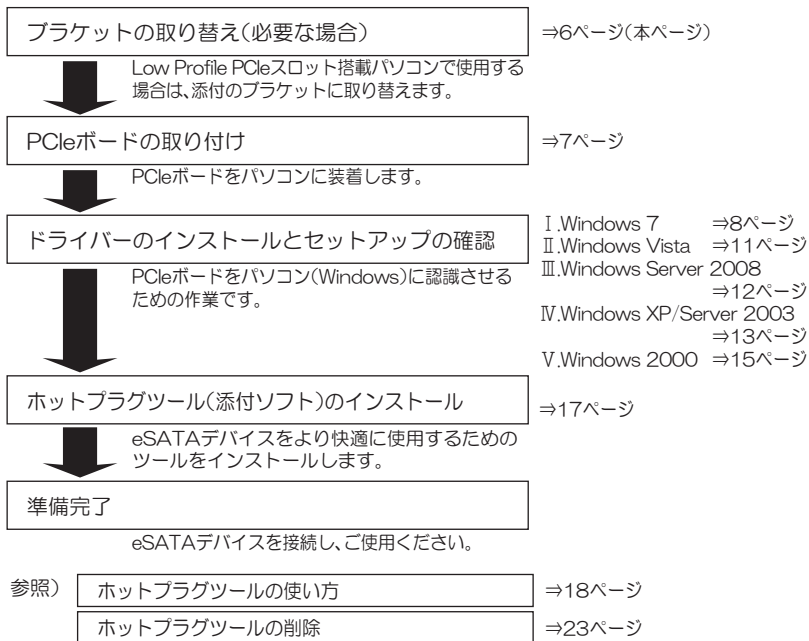


- 2** Windowsで使用する場合 ⇒6ページへ 進んでください。
- 3** Mac OSで使用する場合 ⇒27ページへ

# 2

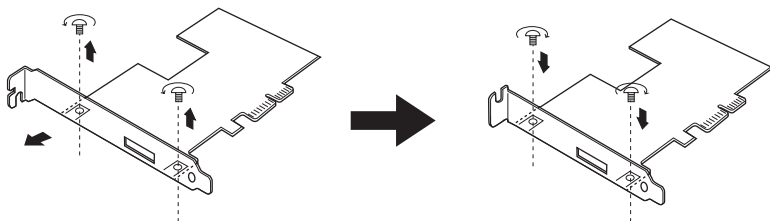
## Windowsで使用する場合

### 2-1. 本製品が使えるようになるまでの手順



### 2-2. Low Profile PCで使用する場合

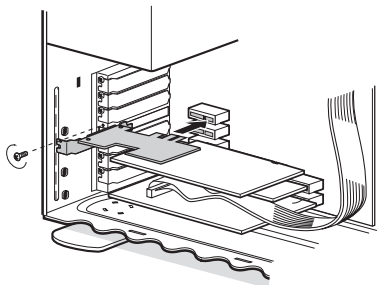
Low Profile(ロー・プロファイル) PCIeスロット搭載パソコンで使用する場合は、下図を参考にし、添付のブラケットに付け替えてください。





## 2-3. PCIeボードの取り付け

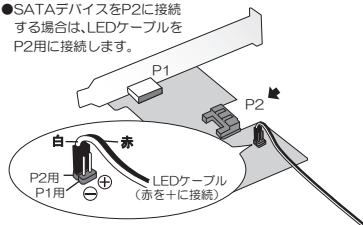
1. パソコンの電源を切ります。
2. PCIeスロットに、PCIeボードを取り付けます。



### 👉 アクセスLEDケーブルを接続する場合

SATAデバイスのアクセスLEDケーブルを接続する場合、PCIeボードをPCIeスロットに取り付ける前におこないます。

- SATAデバイスをP2に接続する場合は、LEDケーブルをP2用に接続します。



※本製品にアクセスLEDケーブルは添付していません。  
※アクセスLEDコネクタにアクセスLEDケーブルを接続した場合、隣接するボードに接触する場合があります。

### ⚠ 注意

- スロットに対し、ボードが傾いた状態で利用すると、本製品やパソコン本体が破損する恐れがあります。
- 金色の接触部がソケットに完全に見えなくなるまで挿入してください。
- 図示のように、ブラケットは必ずネジ止めをしてください。
- 取り付け時、鋭い部分で手を切らないよう、充分注意して作業をおこなってください。

8ページ「2-4. ドライバーのインストールとセットアップの確認」へ進んでください。

## 2-4. ドライバーのインストールとセットアップの確認

OS別にドライバーのインストールとセットアップの確認手順を説明します。

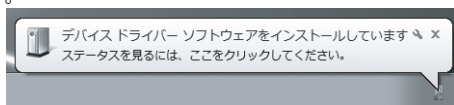
- I. 【Windows 7の場合】: ⇒8ページ(本ページ)
- II. 【Windows Vistaの場合】: ⇒11ページ
- III. 【Windows Server 2008の場合】: ⇒12ページ  
※Windows Server 2008 R2はI. 【Windows 7の場合】を参照してください。
- IV. 【Windows XP/Server 2003の場合】: ⇒13ページ
- V. 【Windows 2000の場合】: ⇒15ページ

### I. 【Windows 7の場合】

※Windows Server 2008 R2の場合も、I. 【Windows 7の場合】を参照してください。

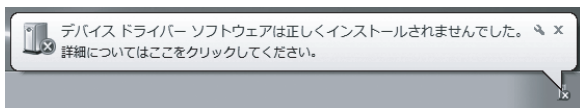
#### I-1. ドライバーのインストール

1. PCIeボード取り付け後、パソコンの電源を入れます。  
“デバイス ドライバー ソフトウェアをインストールしています”の表示がタスクバーに表示されます。



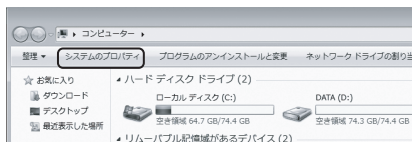
2. “デバイスを使用する準備ができました”と表示されれば、インストール完了です。  
10ページ11.の手順に進んでください。

“デバイス ドライバー ソフトウェアは正しくインストールされませんでした。”と表示された場合は、3.の手順に進んでください。

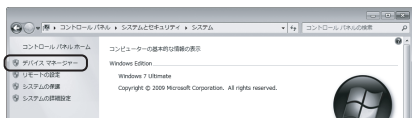


3. デバイスマネージャーを開きます。  
※以下、“デバイスマネージャー”の開き方(一例)を説明します。  
【スタート】→【コンピューター】を開いてください。

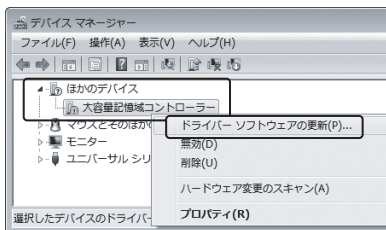
4. ツール バーから【システムのプロパティ】をクリックしてください。



5. 左ペインから【デバイスマネージャー】をクリックしてください。



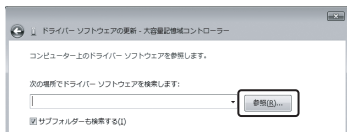
6. 【デバイスマネージャー】の画面から、【ほかのデバイス】の下の【大容量記憶域コントローラー】を右クリックし、【ドライバソフトウェアの更新】を選択してください。



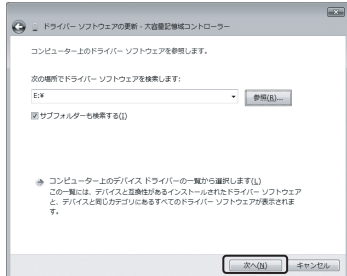
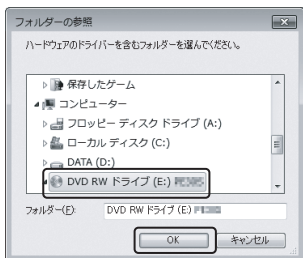
7. “コンピューターを参照してドライバソフトウェアを検索します”をクリックしてください。



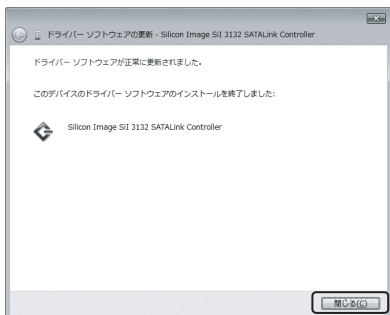
8. 製品添付のCD-ROMをパソコンのCDドライブに挿入し、【参照】をクリックしてください。



9. フォルダの参照画面で、CDドライブを選択し【OK】をクリックしてください。次の画面で【次へ】をクリックしてください。



10. 次の表示でインストール完了です。【閉じる】をクリックしてください。



## 1-2. セットアップの確認

11. 本製品とドライバーが、正常にセットアップされたことを確認します。  
※以下、「デバイスマネージャー」の開き方(一例)を説明します。  
【スタート】→【コンピューター】を開いてください。

12. ツールバーから【システムのプロパティ】をクリックしてください。



13. 左ペインから【デバイスマネージャー】をクリックしてください。

※ユーザーアカウント制御のメッセージが表示された場合は、【はい】または【続行】をクリックしてください。



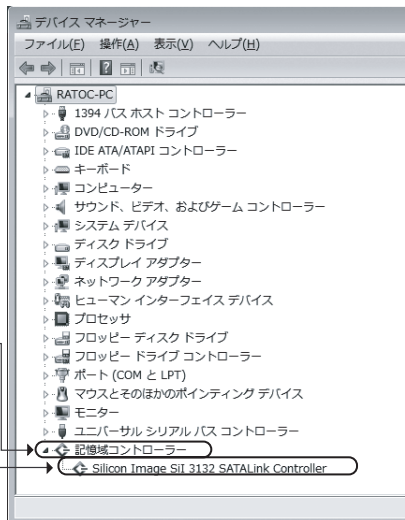
14. 【デバイスマネージャー】の画面にて、次の点を確認してください。



表示されていない場合は、ドライバーが正常にインストールされていません。7ページ 2-3.に戻り、PCIeボードを確実に取り付け、再度インストールをおこなってください。

- ①【記憶域コントローラー】をダブルクリック。

- ②【Silicon Image SiI3132 SATA Link Controller】が表示されていれば、ドライバは正常にインストールされています。

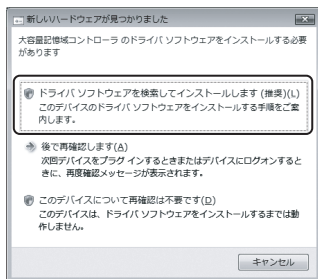


15. 以上で、PCIeボードのセットアップは完了です。  
17ページ「2-5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール」へ進んでください。

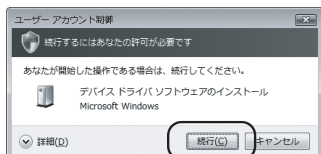
## II. 【Windows Vistaの場合】

### II-1. ドライバーのインストール

1. PCIeボード取り付け後、パソコンの電源を入れます。PCIeボードが新しいハードウェアとして認識され、次の画面が表示されます。  
“**ドライバソフトウェアを検索してインストールします**”をクリックしてください。



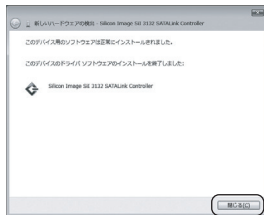
2. 次のメッセージが表示された場合は、【**続行**】をクリックしてください。



3. “インストールしています”の表示がタスクバーに表示されます。



インターネットに接続していない場合は、“**ディスクを挿入してください**”のメッセージが表示されます。製品添付のCD-ROMを挿入しドライバーをインストールしてください。



4. 次の表示でインストール完了です。



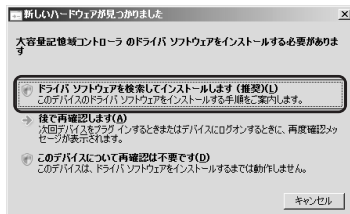
5. 10ページ **I-2. セットアップの確認** を参照しセットアップの確認をおこなってください。
6. 以上で、PCIeボードのセットアップは完了です。  
17ページ「**2-5. ホットプラグツール(添付ソフト)**」のインストールへ進んでください。

### Ⅲ.【Windows Server 2008の場合】

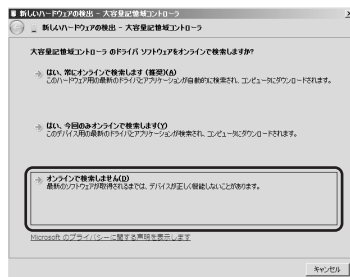
※Windows Server 2008 R2は、8ページの I.【Windows 7の場合】を参照してください。

#### Ⅲ-1. ドライバーのインストール

1. PCIeボード取り付け後、パソコンの電源を入れます。PCIeボードが新しいハードウェアとして認識され、次の画面が表示されます。“**ドライバソフトウェアを検索してインストールします**”をクリックしてください。



2. “**オンラインで検索しません**”をクリックしてください。



3. 製品に添付されているCD-ROMをパソコンのCDドライブに挿入して【**次へ**】をクリックしてください。



4. 次の表示でインストール完了です。【閉じる】をクリックしてください。



5. 10ページ **I-2. セットアップの確認** を参照しセットアップの確認をおこなってください。

6. 以上で、PCIeボードのセットアップは完了です。

17ページ **2-5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール**へ進んでください。

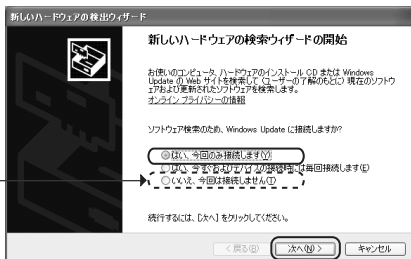
## IV. [Windows XP/Server 2003の場合]

### IV-1. ドライバーのインストール

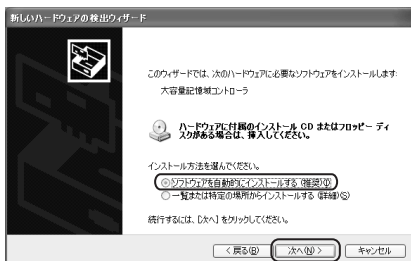
1. PCIeボード取り付け後、パソコンの電源を入れます。PCIeボードが新しいハードウェアとして認識されウィザードが開始されます。

“はい、今回のみ接続します”を選択し、**【次へ】**をクリックしてください。

※インターネットに接続していない場合は、製品添付のCD-ROMからも、ドライバーをインストールすることができます。



2. “ソフトウェアを自動的にインストールする”を選択し、**【次へ】**をクリックしてください。



3. 次の表示でインストールは完了です。**【完了】**をクリックしてください。



### IV-2. セットアップの確認

4. PCIeボードとドライバーが、正常にセットアップされたことを確認します。  
※以下、“デバイスマネージャー”の開き方(一例)を説明します。

【スタート】 → 【コントロールパネル】 (→ 【パフォーマンスとメンテナンス】) → 【システム】をダブルクリックし“システムのプロパティ”を開いてください。

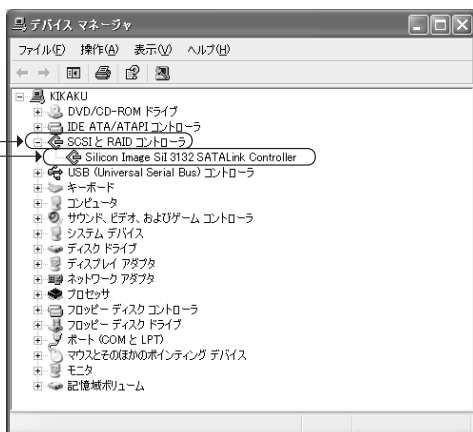
- 【ハードウェア】タブをクリックし、【デバイスマネージャ】をクリックしてください。
- 【デバイスマネージャ】の画面から、【SCSIとRAIDコントローラ】をダブルクリックして、【Silicon Image SiI3132 SATA Link Controller】が登録されている事を確認してください。

①【SCSIとRAIDコントローラ】をダブルクリック。

②【Silicon Image SiI3132 SATA Link Controller】が表示されていれば、ドライバーは正常にインストールされています。



表示されていない場合は、ドライバーが正常にインストールされていません。7ページ「2-3.に戻り、PCIeボードを確実に取り付け、再度インストールをおこなってください。



- 以上で、PCIeボードのセットアップは完了です。  
17ページ「2-5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール」へ進んでください。



## V. 【Windows 2000の場合】

### V-1. ドライバーのインストール

1. PCIeボード取り付け後、パソコンの電源を入れます。PCIeボードが新しいハードウェアとして認識されウィザードが開始されます。

製品に添付されているCD-ROMをパソコンのCDドライブに挿入して【次へ】をクリックしてください。

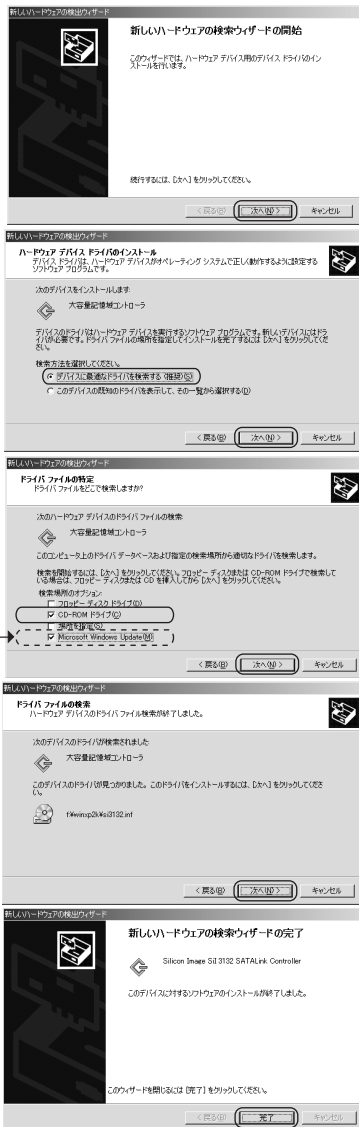
2. “デバイスに最適なドライバを検索する”を選択し、【次へ】をクリックしてください。

3. “CD-ROMドライブ”を選択し、【次へ】をクリックしてください。

※インターネットに接続されている場合は、Microsoft Windows Updateからも、ドライバーをインストールすることができます。

4. 【次へ】をクリックしてください。

5. 次の表示でインストールは完了です。【完了】をクリックしてください。



## V-2. セットアップの確認

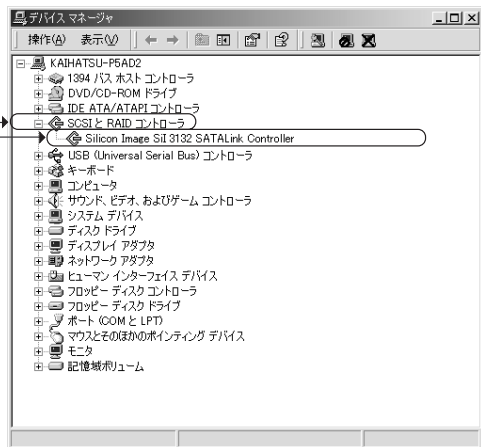
6. PCIeボードとドライバーが、正常にセットアップされたことを確認します。  
※以下、“デバイスマネージャ”の開き方(一例)を説明します。  
【スタート】→【設定】→【コントロールパネル】→【システム】をダブルクリックし“システムのプロパティ”を開いてください。
7. 【ハードウェア】タブをクリックし、【デバイスマネージャ】をクリックしてください。
8. 【デバイスマネージャ】の画面から、【SCSIとRAIDコントローラ】をダブルクリックして、【Silicon Image SiI3132 SATA Link Controller】が登録されている事を確認してください。

- ①【SCSIとRAIDコントローラ】をダブルクリック。

- ②【Silicon Image SiI3132 SATA Link Controller】が表示されていれば、ドライバーは正常にインストールされています。



登録されていない場合は、ドライバーが正常にインストールされていません。7ページ「2-3.に戻り、PCIeボードを確実に取り付け、再度インストールをおこなってください。



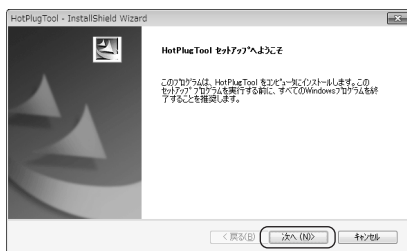
9. 以上で、PCIeボードのセットアップは完了です。  
17ページ「2-5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール」へ進んでください。

## 2 -5. ホットプラグツール(添付ソフト)のインストール

### ホットプラグツールについて

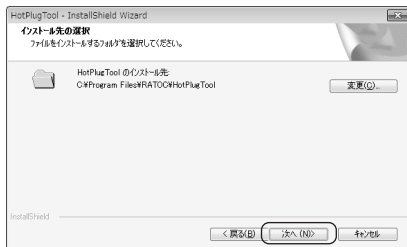
このツールは、パソコンの電源を落とさずにハードディスクなどのデバイスの取り外し/交換を可能にするソフトウェアです。パソコン使用中にデバイスの取り外し、入れ換えをおこなう場合は、必ず本ソフトウェアをインストールしてください。

1. Administrator(管理者)権限でログインしてください。
2. 製品添付のCD-ROMをパソコンのCDドライブに挿入してください。
3. CDドライブを開き、【HotPlugTool】フォルダー内の【SetupHotPlugTool.exe】をダブルクリックしてください。
4. 右記インストール画面が表示されます。  
【次へ】をクリックしてください。



5. インストール場所を確認する画面が表示されます。  
【次へ】をクリックしてください。

※ 別フォルダーを指定する場合は、【変更】をクリックしてインストールするフォルダーを指定してください。



6. インストール完了です。  
【完了】をクリックしてください。

※ “HotPlugToolをすぐに行います。”にチェックを入れると、ホットプラグツールはタスクトレイに常駐します。  
(取り外し可能なデバイスが接続されていない場合は、アイコンは表示されません。)



## 2-6. ホットプラグツールの使い方

ホットプラグツール(製品添付ソフト)は、パソコンの電源を落とさずに、対応製品のポートに接続したハードディスクなどのデバイスを、取り外し/交換(ホットプラグ機能)を可能にするソフトウェアです。

- I. 【ホットプラグツールを使用する方法】 ⇒18ページ(本ページ)  
ハードディスクの接続を例に説明します。
- II. 【ホットプラグツールの設定画面について】 ⇒21ページ  
ホットプラグツールの起動設定や機能のカスタマイズについて説明します。
- III. 【ホットプラグツールの終了について】 ⇒22ページ

### ⚠ 注意

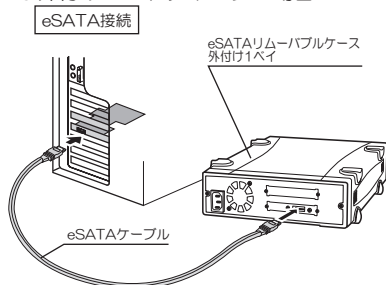
- 取り外し/交換作業をおこなう際は、必ず本章の作業手順に従ってください。下記手順をおこなわず無理に取り外し/交換をおこなうと、ハードディスクの破損、または、記録データが損失する場合があります。
- 本製品に接続したハードディスクからシステム起動している場合、ホットプラグはできません。

### I. 【ホットプラグツールを使用する方法】

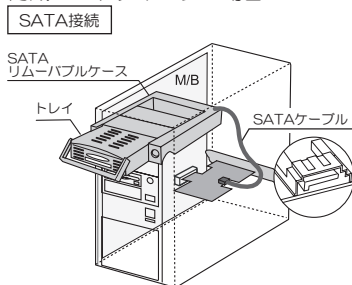
ハードディスクの接続を例に説明します。

#### 1. 外付けハードディスクを接続します。

##### ● 外付けハードディスクの場合



##### ● 内蔵ハードディスクの場合



※接続したデバイスへの電源供給はおこなえません。

※ケーブル、リムーバブルケース、トレイは別売品です。本製品には添付していません。  
35ページ「**5** オプション品のご案内」を参照ください。

※ホットプラグツールはポートマルチプライヤー対応デバイスにも対応しています。  
20ページ「ポートマルチプライヤーデバイス接続時の使用方法」も参照ください。

2. パソコンを起動し、ハードディスクを認識すると、デスクトップ右下のタスクトレイにアイコンが表示されます。

ハードディスクの取り外し/交換をおこなう場合、まずアイコン上でクリックしてください。

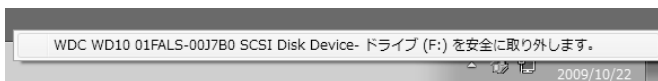


**注意**

- 【ホットプラグツール】は常駐ソフトです。
- ホットプラグツールの初期設定では、機器を接続していない場合、および取り外し可能なデバイスが接続されていない場合(ダイナミックディスクなど)、アイコンは表示されません。
- ホットプラグツールのインストールをおこなっていない場合、アイコンは表示されません。

3. アイコンをクリックすると、接続しているドライブ情報が表示されます。

取り外すドライブを選択し、クリックしてください。



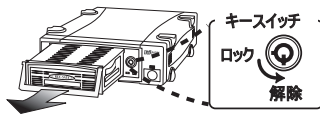
※ 全てのWindowsでは、SATAデバイスを接続した時、“SCSI Disk Device”と表示されます。表示されるデバイスの名称は接続するデバイスにより異なります。

4. “デバイスは安全に取り外しができます。”のメッセージが表示されます。

Windows 7/Vista/Server 2008の場合

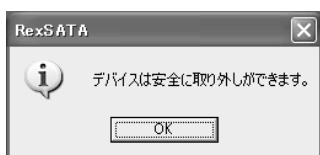
デバイスの電源をOFFにしてから[OK]をクリックしてください。手順が異なるとドライブが再接続されます。

- eSATAリムーバブルケース 外付け1ベイ (型番:SA-DK1ES)の場合



Windows XP/2000/Server 2003の場合

[OK]をクリックしてください。

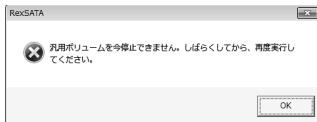


**注意** 汎用ボリュームを今停止できません。と表示された場合

このメッセージが表示された場合は、デバイスの取り外しはできません。他のアプリケーション、システム等が該当ドライブを使用している可能性があります。しばらく時間が経ってから、もう一度 2. の手順からおこなってください。

ウイルス対策ソフトウェアなど、ディスク監視をおこなうソフトウェアが該当ドライブを使用している場合は、ソフトウェアを終了してください。


無理に取り外しをおこなうと、ハードディスクの破損、記録データの損失などが発生する場合があります。



## 5. デバイスを取り外します。

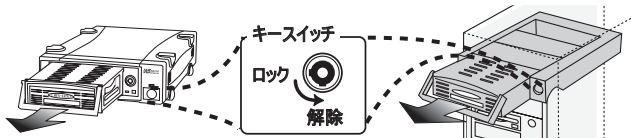
### 外付けハードディスクの取り外し


外付けハードディスクの電源を切るか、eSATAケーブルを抜いてください。

 外付けハードディスクの交換後、eSATAケーブルを接続するか、外付けハードディスクの電源を入ると再びドライブが表示されます。

### トレイの交換

キースwitchのロックを解除し、トレイを取り外してください。



 トレイ交換後キースwitchを“ロック”することにより、再びドライブが表示されます。

## ポートマルチプライヤーデバイス接続時の使用方法

ホットプラグツールは、ポートマルチプライヤー対応デバイスにも対応しています。



RAID対応  
eSATAリム-ハブケース  
外付け5ベイ  
(型番:SA-DK5-ESR)

- 多段タイプのデバイスを接続した場合は、何段目に装着したトレイかの情報を加えて表示します。

```
[ HOST:5 PORT:1 ] PORT MULTIPLIER UNIT
[ TRAY:1 ] Hitachi HT5541260H9SA00 SCSI Disk Device- ドライブ (E:) を安全に取り外します。
[ TRAY:2 ] WDC WD10 01FALS-00J7B1 SCSI Disk Device- ドライブ (F:) を安全に取り外します。
[ TRAY:3 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (G:) を安全に取り外します。
[ TRAY:4 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (H:) を安全に取り外します。
[ TRAY:5 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (I:) を安全に取り外します。
```

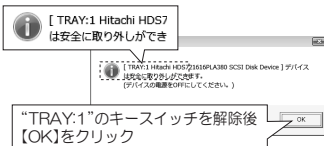
- PORT MULTIPLIER UNITを選択した場合、ドライブを一括で取り外します。

例) 選択  
TRAY:1,2,3,4,5が  
取り外される。

```
[ HOST:5 PORT:1 ] PORT MULTIPLIER UNIT
[ TRAY:1 ] Hitachi HT5541260H9SA00 SCSI Disk Device- ドライブ (E:) を安全に取り外します。
[ TRAY:2 ] WDC WD10 01FALS-00J7B1 SCSI Disk Device- ドライブ (F:) を安全に取り外します。
[ TRAY:3 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (G:) を安全に取り外します。
[ TRAY:4 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (H:) を安全に取り外します。
[ TRAY:5 ] WDC WD10 01FALS-00J7B0 SCSI Disk Device- ドライブ (I:) を安全に取り外します。
```

※Windows 7/Vista/Server 2008の場合

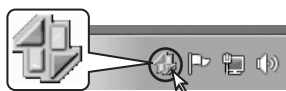
取り外しメッセージで、取り外すTRAY Noを1つずつ表示  
します。該当段のトレイのキースwitchを解除してから、  
【OK】をクリックしてください。



## II.【ホットプラグツールの設定画面について】

タスクトレイのアイコンをダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。

ここでは、ディスクの取り外し/ホットプラグツールの起動に関する設定/機能のカスタマイズが可能です。



### ① ハードウェアデバイス

現在接続しているデバイスが表示されます。停止するデバイスを選択し【停止】をクリックすると、デバイスを取り外すことができます。

### ② システム起動時にホットプラグツールを起動する。

ホットプラグツールを常駐させない場合、このチェックBOXのチェックを外してください。次回起動時から、ホットプラグツールは自動的に起動(常駐)しません。

※1:常駐させていない時の起動方法は、【スタート】→【すべてのプログラム(Windows 2000はプログラム)】→【Hot Plug Tool】内の【Hot Plug Tool】をクリックしてください。

※2:常駐時に※1と同じ操作をしたときは“ハードウェアの安全な取り外し”ダイアログボックスが表示されます。



※画面はXPの場合。

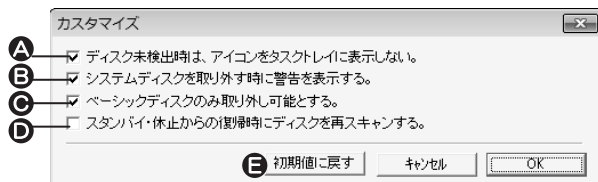
### ③ 再スキャン

【再スキャン】をクリックするとデバイスの検索をします。ディスクが見つからない場合や、デバイス名がUnkown Deviceなどと表示される場合などに使用してください。

### ④ カスタマイズ(上級者向け)

【カスタマイズ】をクリックするとダイアログボックスが表示されます。ここでホットプラグツールの機能をカスタマイズすることができます。

## 前ページ(4カスタマイズ)の説明つづき



- A** ディスク未検出時は、アイコンをタスクトレイに表示しない。  
※チェックを外すと、ホットプラグツール起動時は常にアイコンが表示されます。
- B** システムディスクを取り外す時に警告を表示する。  
※チェックを外すと、システムがインストールされている可能性があるディスクを外す場合でも、警告を表示しません。
- C** ベーシックディスクのみ取り外し可能とする。  
※チェックを外すと、ダイナミックディスクなども取り外し対象となります。  
※ダイナミックディスクのドライブ文字は表示されません。
- D** スタンバイ・休止からの復帰時にディスクを再スキャンする。  
※復帰時にディスクが見つからない場合にチェックしてください。  
※正常なパソコンではチェックをONにしないでください。再スキャン処理にかかる余計なリソースを消費します。
- E** 「初期値に戻す」ボタン  
※クリックするとチェックON/OFFを初期値に戻します。

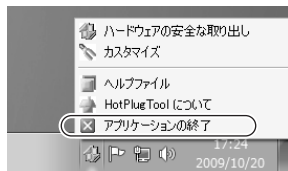


### ご注意

システムディスク/ダイナミックディスクの取り外しはシステムエラーの発生リスクを伴います。ご注意ください。

## Ⅲ.【ホットプラグツールの終了について】

タスクトレイのアイコンを右クリックすると、メニューが表示されますので、“アプリケーションの終了”を選択してください。



### アイコン表示がないときは

ディスク未検出でアイコン表示がないときに、“アプリケーションの終了”をおこないたい場合は、まず、スタートメニューからHot Plug Toolを選択し、カスタマイズ(上記A参照)により、アイコンを表示させてください。



## 2-7. ホットプラグツールの削除

### Windows 7/Vista/Server 2008の場合

※例はWindows 7の画面です。その他OSでは画面が若干異なります。  
※ホットプラグツールを削除する必要がある場合のみ、実行してください。

1. 【スタート】→【コントロールパネル】→【プログラムのアンインストール】  
(クラシック表示では【プログラムと機能】)を選択してください。

2. 【HotPlugTool】を選択し、【アンインストール】をクリックしてください。

※ユーザーアカウント制御のメッセージが表示された場合、【はい】または【続行】をクリックしてください。



3. 確認画面が表示されますので【はい】をクリックしてください。



4. ホットプラグツールの削除は完了です。  
【完了】をクリックしてください。



### Windows XP/2000/Server 2003の場合

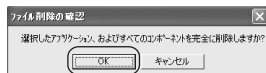
※例はWindows XPの画面です。その他OSでは画面が若干異なります。  
※ホットプラグツールを削除する必要がある場合のみ、実行してください。

1. 【スタート】→【コントロールパネル】→【プログラムの追加と削除】を開いてください。  
Windows 2000は【スタート】→【設定】→【コントロールパネル】→【アプリケーションの追加と削除】を開いてください。

2. 【HotPlugTool】を選択し、【変更と削除】をクリックしてください。



3. 確認画面が表示されますので【OK】をクリックしてください。



4. ホットプラグツールの削除は完了です。  
【完了】をクリックしてください。



## 2 -8. PCIeボード経由でOSをインストールする

本製品に接続したハードディスクに、OSをインストールする手順を説明します。

I. 【Windows 7/Vista/Server 2008の場合】: ⇒24ページ(本ページ)

II. 【Windows XP/2000/Server 2003の場合】: ⇒25ページ

### ご注意

本製品に接続したハードディスクにOSをインストールすることができます。  
ただし、パソコンにより方法が異なりますので、サポートおよび動作保証の対象外となります。

## I. 【Windows 7/Vista/Server 2008の場合】

1. 弊社ホームページより「BootBIOS書き換えユーティリティ」をダウンロードし、本製品にBootBIOSの書き込みをおこないます。

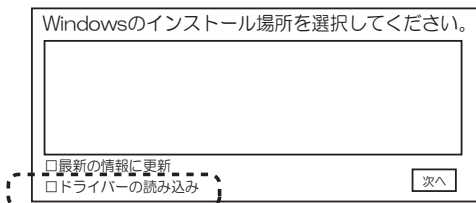
※本製品は2009年12月出荷分(シリアルNo:PE30S0021391～PE30S0021590,PE30S0030001以降)より、BootBIOSが書き込まれていない状態での出荷に変更しております。本製品に接続したディスクからの起動や、接続ディスクへのOSインストールをおこなうには、本ユーティリティにて、本製品のブートROMにBootBIOSの書き込みが必要です。




### 【BootBIOS書き換えユーティリティ】

[http://www.ratocsystems.com/services/driver/sata/pe3x\\_bootbios.html](http://www.ratocsystems.com/services/driver/sata/pe3x_bootbios.html)  
本ユーティリティのインストールおよび使用方法は、当ダウンロードページを参照してください。


2. 製品添付CD-ROMを用意します。
3. OSのDVDをセットして、DVDからシステムを起動します。
4. Windowsのインストール画面が表示されますので、画面の指示に従って進めてください。
5. 次の画面で、【ドライバーの読み込み】をクリックしてください。



6. メディアを要求されますので、OSのDVDを取り出して、製品添付のCD-ROMに入れ替え、【参照】をクリックしてください。
7. フォルダーの参照画面が表示されます。  
ツリー表示から「CDドライブ」の「PE30S\_PE32S\_EX30S」の中の「WinXP2K」フォルダーを選択し、「OK」をクリックしてください。  


Windows 7 x64/Vista x64/Server 2008 x64の場合は、「WinXP64」フォルダー内の「AMD64」フォルダーを選択し、「OK」をクリックします。
8. インストールするドライバーで【Silicon Image SiI3132 SATALink Controller】を選択し【次へ】をクリックしてください。
9. 「Windowsのインストール場所を選択してください」の画面で、本製品に接続されたハードディスクを選択し【次へ】をクリックしてください。
10. Windowsのインストールディスクを要求されますので、製品添付のCD-ROMを取り出して、OSのDVDに入れ替え、【OK】をクリックしてください。
11. 以上で、本製品に接続したハードディスクへのOSインストールが開始されます。

## II. 【Windows XP/2000/Server 2003の場合】

1. “I-1.”を参照し、本製品にBootBIOSの書き込みをおこないます。
2. フォーマット済のフロッピーディスクを用意し、製品添付CD-ROMの「PE30S\_PE32S\_EX30S」→「WinXP2K」フォルダーの中身をコピーしてください。  


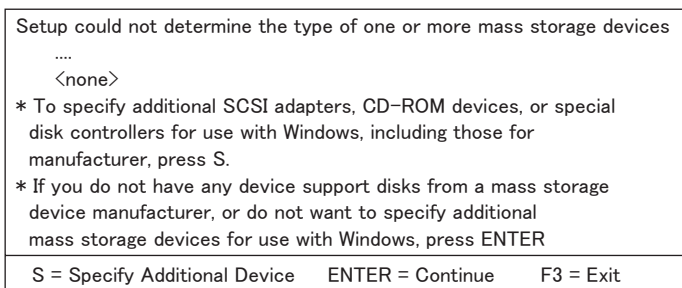
Windows XP x64/Server 2003 x64の場合は、「WinXP64」フォルダーの中身をフロッピーディスクにコピーします。
3. OSのCDをセットして、CD-ROMからシステムを起動します。
4. システム起動中に、本製品に接続したハードディスクの型番と容量が、次のように表示されていることを確認してください。

SiI 3132 SATALink BIOS Version 7.4.05  
Copyright (C) 1997-2006 Silicon Image, Inc.

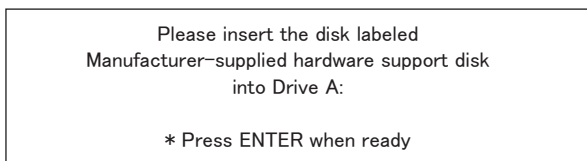
0 WDC WD2500KS-00MJBO                      232 GB

 型番と容量はご使用のハードディスクによって表示が異なります。

5. 画面左上に「Windows Setup」と表示され、画面下に「Press F6- if you need to install a third party SCSI or RAIDdriver.....」と表示されている間に[F6]キーを押します。
6. インストールの途中で以下の画面が表示されたら、[S]キーを押してください。



7. ディスク挿入を促す下の画面が表示されます。  
“Ⅱ-2.”で作成したフロッピーディスクをセットして[Enter]キーを押します。



8. 下記のように表示されます。  
インストールする各OSに合わせて選択し、インストールを続行します。

<Windows XP x64/Server 2003 x64の場合>  
Silicon Image Sil 3132 SATALink Controller (64-bit Extended)  
Silicon Image Sil 3132 SATALink Controller (Itanium)



64-bit Extendedを選択します。

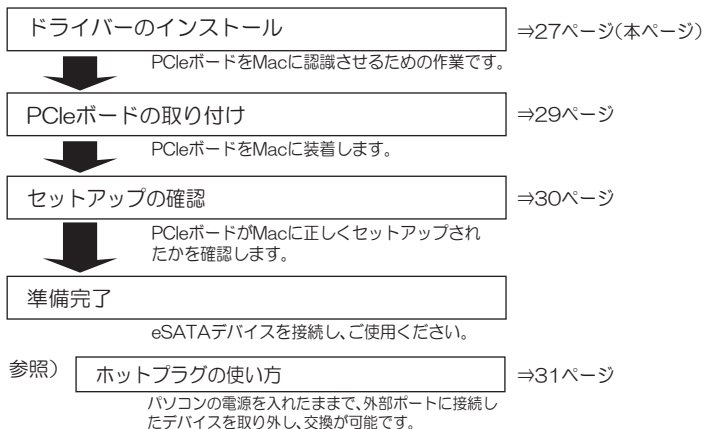
<Windows XP/Server 2003の場合>  
Silicon Image Sil 3132 SATALink Controller for Windows XP/Server 2003

<Windows 2000の場合>  
Silicon Image Sil 3132 SATALink Controller for Windows 2000

9. 以上で、本製品に接続したハードディスクへのOSインストールが開始されます。

# 3 Mac OSで使用する場合

## 3-1. 本製品が使えるようになるまでの手順



### ご注意

- ※PCIeボードを取り付ける前に必ずドライバーのインストールをおこなってください。  
(間違っても先にPCIeボードを取り付けた場合は、一旦PCIeボードを取り外してからドライバーのインストールをおこなってください。)
- ※Mac OSの場合、本製品に接続したハードディスクからの起動には対応していません。

## 3-2. ドライバーのインストール

1. 製品添付のCD-ROMをMacのCDドライブに挿入し、CD-ROMの中の【PE30S PE32S Installer】フォルダーを開き、【Sil3132\_1.1.9u\_Sil\_Pkg】をダブルクリックしてください。
2. “ようこそ”画面が表示されます。【続ける】をクリックしてください。



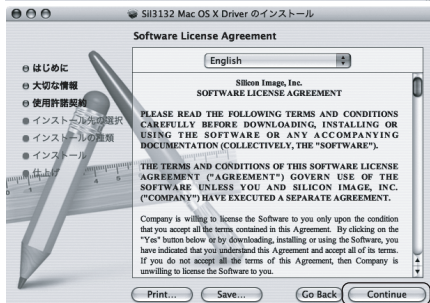
Sil3132\_1.1.9u\_Sil\_Pkg



3. “大切な情報”画面が表示されます。  
【続ける】をクリックしてください。



4. “使用許諾契約”画面が表示されます。  
【Continue】をクリックしてください。



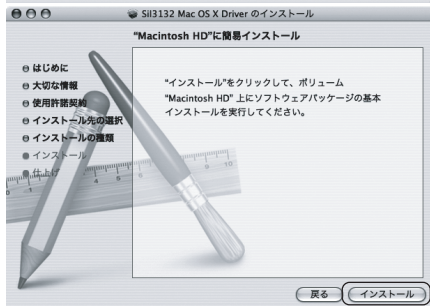
5. 次のメッセージが表示されます。  
【Agree】をクリックしてください。



6. “インストール先の選択”画面が表示されます。インストール先を選択し  
【続ける】をクリックしてください。



7. 【インストール】をクリックしてください。



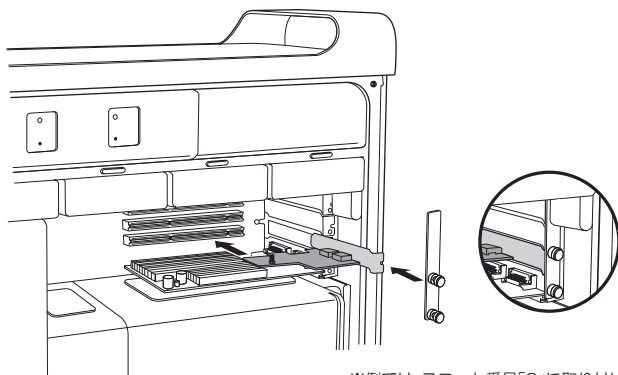
8. パスワードを入力し【OK】をクリックしてください。



9. インストール完了です。  
【閉じる】をクリックしてください。

### 3 -3. PCIeボードの取り付け

1. Macの電源を切ります。
2. PCIeスロットに、PCIeボードを取り付けます。



※例では、スロット番号「2」に取り付けています。

#### ⚠ 注意

- スロットに対し、ボードが傾いた状態で利用すると、本製品やMac本体が破損する恐れがあります。
- 金色の接触部がソケットに完全に見えなくなるまで挿入してください。
- 図示のように、ブラケットは必ずネジ止めをしてください。
- 取り付け時、鋭い部分で手を切らないよう、充分注意して作業をおこなってください。

### 3-4. セットアップの確認

1. PCIeボードを取り付け後、Macの電源を入れます。
2. PCIeボードとドライバーが正常にセットアップされたことを確認します。  
【移動】→【ユーティリティ】→【システムプロファイラ】をダブルクリックしてください。



システムプロファイラ

3. 【ハードウェア】カテゴリの【PCIカード】をクリックし、【pci1095,3132:その他の大容量記憶装置コントローラ】が登録されていることを確認してください。

①【PCIカード】をクリック。

②図示のように、表示されていれば、ドライバーは正常にインストールされています。

カード	種類
NVIDIA GeForce 7300 GT	display
pci1095,3132	その他の大容量記憶装置コントローラ

pci1095,3132:

種類:	その他の大容量記憶装置コントローラ
バス:	PCI
スロット:	Slot-3
製造元 ID:	0x1095
装置 ID:	0x3132
サブシステム製造元 ID:	0x1095
サブシステム ID:	0x3132
リビジョン ID:	0x0001



表示されていない場合は、ドライバーが正常にインストールされていません。  
【Macintosh HD】→【システム】→【ライブラリ】→【Extensions】の中にある、  
【Siliconimage3132.kext】ファイルがあるかどうかを確認してください。  
このファイルがない場合は、一旦PCIボードを取り外した後27ページ「3-2. ドライバーのインストール」以降の手順で再度セットアップをおこなってください。(PCIボードの取り付けは確実におこなってください。)

4. 以上で、PCIボードのセットアップは完了です。  
eSATAデバイスを接続し、ご使用ください。

本製品はホットプラグ対応です。

使い方は、31ページ「3-5. ホットプラグの使い方」を参照ください。



### 3 -5. ホットプラグの使い方

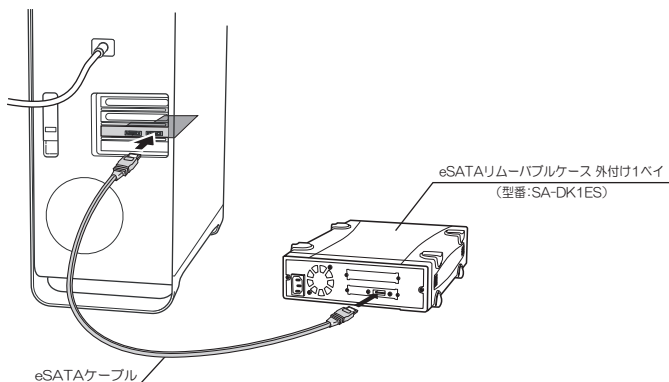
本製品は、Macの電源を落とさずに、外部ポートに接続したハードディスクなどのデバイスを取り外し/交換が可能です。

#### ⚠ 注意

取り外し/交換作業をおこなう際は、必ず本章の作業手順に従ってください。  
下記手順をおこなわず無理に取り外し/交換をおこなうと、ハードディスクの破損、または記録データが損失する場合があります。

ハードディスクの接続を例に説明します。

#### 1. 外付けハードディスクを接続します。(図は外付けリムーバブルケース)



※接続したデバイスへの電源供給はおこなえません。

※eSATAケーブル、リムーバブルケース、トレイは別売品です。本製品には添付していません。  
35ページ「**5** オプション品のご案内」を参照ください。

※ポートマルチプライヤー対応デバイスも接続できます。



2. Macを起動し、ハードディスクをマウントすると、デスクトップに右記アイコンが表示されます。

※ボリューム名は環境により異なります。



RATOC1

3. 取り外すドライブのアイコンを選択し、ゴミ箱へ捨ててください。



4. ドライブを取り外します。

#### 外付けハードディスクを取り外す場合

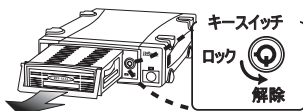
外付けハードディスクの電源を切るか、eSATAケーブルを抜いてください。



外付けハードディスクの交換後、eSATAケーブルを接続するか、外付けハードディスクの電源を入れると再びドライブが表示されます。

#### トレイを交換する場合

キースイッチのロックを解除して、トレイを取り外してください。



トレイの交換後キースイッチを“ロック”することにより、再びドライブが表示されます。

## 3-6. ドライバーの削除

本製品のドライバーを削除する必要がある場合のみ実行してください。

【Macintosh HD】→【システム】→【ライブラリ】→【Extensions】の中にある、【Siliconimage3132.kext】ファイルをゴミ箱へ捨ててください。

# 4

## お問い合わせ

### 4-1. 本製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記弊社サポートセンターまでお問い合わせください。お問い合わせの際には、巻末の「質問用紙」に必要事項をご記入のうえ、下記FAX番号までお送りください。折り返し、電話またはFAX、メールにて回答いたします。なお、ご質問に対する回答は下記営業時間内とさせていただきますのでご了承ください。また、ご質問の内容によりましては弊社にてテスト/チェック等をおこなう関係上、回答までに時間を要する場合もございますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

#### ラトックシステム株式会社 サポートセンター

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東1-6-14 朝日なんばビル

TEL 大阪:06-6633-0190 東京:03-5207-6410

FAX:06-6633-3553 (FAXは24時間受付)

営業時間 月曜～金曜 10:00～13:00、14:00～17:00

土曜・日曜・祝日及び弊社指定の休日を除く

ホームページで最新の情報をお届けしております。  
またホームページ上からのご質問・お問い合わせも可能です。

<http://www.ratocsystems.com/>

### 4-2. プロダクトキーについて

弊社では、プロダクトキーと呼ばれる16桁の認証コードを、1製品につき1個発行しています。プロダクトキーは、製品に添付されている保証書のシリアル番号欄に製品シリアル番号とともに印字されています。

(例) Product Key: NMft-DWQC-XtYg-Q8MA

このプロダクトキーは、正規ユーザーであるかどうかの認証が必要な場合に認証キーとして使用されます。プロダクトキーによる認証をおこなう場合は、プロダクトキーのみでユーザー認証をおこない、ユーザー登録のような個人情報の登録が無くてもダウンロードの実行が可能となります。

詳しくは、弊社Webサイト (<http://p-key1.ratocsystems.com/>) をご覧ください。



ご注文の際、プロダクトキーが必要なオプションもありますので、紛失しないように大切に保管してください。

※プロダクトキーは再発行されません。

## 4 -3. 修理について

万一故障した場合は、本製品に添付の保証書記載内容に基づいて修理いたします。故障と思われる症状が発生した場合は、まず本書を参照し、接続や設定が正しくおこなわれているかどうかご確認ください。現象が改善されない場合は、弊社ホームページの下記アドレス「修理について」を参照し、弊社修理センター宛に製品をお送りください。なお、修理は部品修理ではなく全交換修理となる場合がありますことをご了承ください。修理に関してご不明な点がありましたら、弊社サポートセンターまでご相談ください。

- 〈製品送付先〉 ラトックシステム株式会社 修理センター  
〒556-0012 大阪市浪速区敷津東1-6-14 朝日なんばビル  
TEL:06-6633-0190
- 〈送付頂くもの〉 ・本製品の保証書の原本  
・製品  
・質問用紙（本書巻末の「質問用紙」に現象を明記してください。）
- 〈送付方法〉 宅急便等、送付の控えが残る方法でお送りください。  
弊社への修理品の送料は、送り主様をご負担ください。返送の費用は、弊社が負担いたします。  
輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
- 〈修理費用〉 保証書に記載の保証期間・条件のもと、有償となる場合があります。  
詳細は保証書をご覧ください。

### 修理についてのご案内

<http://www.ratocsystems.com/services/repair/contents.html>

# 5 オプション品のご案内

オプション品のご注文は、ラトックダイレクトにて承ります。

<http://rps.ratocsystems.com/>

## ◆ ケーブル

型番	品名
RCL-SATA-06S	SATAケーブル 約60cm
RCL-SATA-06	SATAケーブル 約60cm/片側ライトアングル
RCL-SATA-10	SATAケーブル 約100cm
RCL-ESATA-10	eSATAケーブル 約100cm

## ◆ SATAリムーバブルケース(外付けタイプ)

型番	品名
SA-DK1ES	eSATAリムーバブルケース 外付け1ベイ
SA-DK1EU	eSATA&USB2.0リムーバブルケース 外付け1ベイ
SA-DK5-ESR	RAID対応 eSATAリムーバブルケース 外付け5ベイ ※

Win/Mac両対応

※ポートマルチプライヤー対応。



eSATAリムーバブルケース  
外付け1ベイ  
(材質: ABS・銅板)



eSATA&USB2.0  
リムーバブルケース 外付け1ベイ  
(材質: ABS・銅板)



RAID対応  
eSATAリムーバブルケース  
外付け5ベイ  
(材質: アルミ・ABS・銅板)

## ◆ 5インチドライブケース

型番	品名
RS-EC5ES	eSATA 5インチドライブケース
RS-EC5EU	eSATA&USB2.0 5インチドライブケース

Win/Mac両対応



eSATA 5インチドライブケース  
(材質: ABS・銅板)



eSATA&USB2.0  
5インチドライブケース  
(材質: ABS・銅板)

## ◆ SATAリムーバブルケース(内蔵タイプ)

型番	品名
SA-RC1A-LGS	SATAリムーバブルケース (内蔵) アルミ・静音ファン・ライトグレー
SA-RC1A-LG	SATAリムーバブルケース (内蔵) アルミ・ライトグレー
SA-RC1-LG	SATAリムーバブルケース (内蔵) ライトグレー
SA-RCAIDE-LG	SATAリムーバブルケース (内蔵) アルミ・ライトグレー・IDE HD用トレイ付
SA-RCIDE-LG	SATAリムーバブルケース (内蔵) ライトグレー・IDE HD用トレイ付

Win対応

※カラーはライトグレーのほか、ブラックなどがございます。



SA-RC1A-LGS  
(材質: アルミ、ABS)



SA-RC1A-LG  
(材質: アルミ、ABS)



SA-RC1-LG  
(材質: ABS)



SA-RCAIDE-LG ※1  
(材質: アルミ、ABS)



SA-RCIDE-LG ※1  
(材質: ABS)

※1 IDE HD用トレイは、HITACHI IDE HDDを使用できません。

## 6

## 一般仕様

型番	REX-PE30S
名称	eSATA PCI Expressボード
対応OS	Windows 7/Vista/XP/2000、Windows Server 2008/2003 Mac OS X 10.4以降 ※Windowsは64ビット版にも対応(Windows 2000除く)
対応機種	PCI Expressスロットを装備したWindows PCまたはMac Pro ※Power Mac G5 (Dual 2GHz, Dual 2.3GHz, Quad 2.5GHz)には対応していません。 ※DELL PowerEdge T300 サーバー、Precision T5500ワークステーションには対応しておりません。
バスインターフェイス	PCI Express x1 (PCI Express Standard 1.1準拠)
SATAコントローラー	SiI3132 (SATA II準拠、ポートマルチプライヤー対応)
接続コネクタ	外部コネクタ：eSATA×1 内部コネクタ：SATAコネクタ×1、アクセスLED接続用×2
データ転送速度	3.0Gbps/1.5Gbps (理論値)
電源電圧	DC +3.3V (PCI Expressスロットより供給)
電源管理	ACPI対応
動作環境	温度：0～55℃、湿度：20～80% (ただし結露しないこと)
外形寸法	約 64mm(W)×90mm(L) ブラケット部含まず (標準/Low Profile 両対応)
重量	約 42.5g
製品内容	eSATA PCI Expressボード、Low Profileブラケット ソフトウェアCD-ROM、ユーザーズマニュアル、保証書 (1年間)
添付ソフトウェア	ドライバーソフトウェア、ホットプラグツール (Windows用)
保証期間	1年間

※ 本製品は起動用ブートROMを搭載していますが、接続したハードディスクやSSDからシステムを起動するには、BootBIOSの書き込みにより有効化する必要があります。(シリアルNo：PE30S0021391～PE30S0021590、PE30S003001以降の製品は、ブートROMを無効にして出荷しています。専用ユーティリティにてBootBIOSを書き込み、有効化してください。)

※ アクセスLEDコネクタにアクセスLEDケーブルを接続した場合、隣接するボードに接触する場合があります。

※ eSATAケーブルは最長200cm、SATAケーブルは最長100cmまでのものを使用してください。

※ Mac OSの場合、本製品に接続したハードディスクからの起動には対応していません。

※ Boot Campなどの仮想OSでの使用はサポートしていません。

※ Mac OSのクラシック環境での使用はサポートしていません。

※ 接続したデバイスへの電源供給はおこなえません。

※ SATA IIの機能(3Gbps転送やNCQなど)を使用するためには、各機能に対応したデバイスが必要です。

※ 本製品は国内仕様となっており、海外についての保守およびサポートはおこなっておりません。

※ 製品改良のため、将来予告なく外觀、または仕様の一部を変更する場合があります。

ラトックシステム株式会社 サポートセンター宛

**FAX: 06-6633-3553**

お手数ですが、拡大コピーの上必要事項を記入して、FAXでお送りください。

氏名			
会社・学校	※法人登録の方のみ		
部署・所属	※法人登録の方のみ		
住所	〒		
TEL		FAX	
メールアドレス			
製品型番	REX-PE30S	シリアル番号	
購入店名			
購入年月日			

パソコン機種	メーカー名		型番	
使用OS	<input type="checkbox"/> Winodws) <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> Vista <input type="checkbox"/> XP <input type="checkbox"/> 2000 <input type="checkbox"/> Server 2008 R2 <input type="checkbox"/> Server 2008 <input type="checkbox"/> Server 2003 ※該当の方はチェック ⇒ <input type="checkbox"/> ServicePack( )を適用 <input type="checkbox"/> 64ビット版を使用 <input type="checkbox"/> [Mac OS] <input type="checkbox"/> Mac OS X (Ver )			
接続機器	分類	<input type="checkbox"/> ハードディスク <input type="checkbox"/> その他( )	型番	
	メーカー名			
質問内容				
添付資料	<input type="checkbox"/> Windows: デバイスマネージャーのシステム概要※1 <input type="checkbox"/> Mac: システムプロファイラの簡易レポート※2 <input type="checkbox"/> その他( )			

※1 デバイスマネージャーのシステム概要の印刷方法

- (1) [スタート]メニューから[すべてのプログラム(Windows 2000: プログラム)]-[アクセサリ]-[システムツール]-[システム情報]を選択します。  
Windows 7の場合は、[スタート]メニューの検索ボックスに「システム情報」と入力し、検索結果から[システム情報]を開きます。
- (2) Windows 7/Vista/XP, Windows Server 2008/2003: [ファイル]-[エクスポート]を選択し、任意の名前のテキストファイルで保存します。  
Windows 2000: [操作]-[一覧のエクスポート]を選択し、任意の名前のテキストファイルで保存します。
- (3) 保存したテキストファイルを開き、印刷します。

※2 システムプロファイラの簡易レポートの印刷方法

- (1) Finderのメニューバーから[移動]-[ユーティリティ]-[システムプロファイラ]を開きます。
- (2) [表示]-[簡易レポート]を選択します。[ファイル]-[プリント]を選択し、簡易レポートを印刷します。

提供いただいたお客様の個人情報は、サポート目的のみに使用し、他の目的には使用しません。  
 弊社の個人情報取り扱いに関する詳細は、弊社ホームページをご覧ください。  
<http://www.ratocsystems.com/info/privacy.html>



©RATOC Systems, Inc. All rights reserved.  
Printed in Japan